

(熊本県立翔陽高等学校) 令和7年度(2025年度)学校評価表

1 学校教育目標
「未来のくまもとを支える地域人材の育成」

2 本年度の重点目標
<p>1 総合学科の多様な教育内容とキャリア教育を通して、職業観・勤労観（キャリアプランニング能力）とともに様々な課題に対応する力（課題対応能力）を高め、多様な文化や価値観を理解し（多文化理解）、広い視野を持って行動できる生徒を育成する。</p> <p>2 生徒が主体となる活動を通して、自己を理解する力（自己理解）と自己をマネジメントする力（自己管理能力）を高め、自己に自信と誇り（自己効力感）を持てる生徒を育成する。</p> <p>3 生徒同士が力を合わせて学び合う活動を通して、物事を多面的に見る力（豊かな感性）を高め、自他の個性を尊重するとともに自他を大切にする生徒を育成する。</p>

3 自己評価総活表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果（○）と課題（●）
大項目	小項目					
学校経営	学校教育目標を全職員で共有し、具現化に取り組む。	・本年度の重点目標を踏まえた目標設定とその実現	○各分掌部及び職員が学校教育目標達成のためにそれぞれの役割を遂行する。	・業績評価において学校の重点目標を踏まえた目標を設定する。 ・人事評価面談において管理職による指導助言を行う。	B	○学校評価アンケート項目「特色を生かした学校づくり」の評価は全指標で3.4ポイント以上となり、概ね達成できた。 ●今後は部間の連携や業務の重複を精選し、評価指標を用いた改善を推進する。
	総合学科としての特色を広く周知する。	・保護者・地域への積極的な情報提供	○学校の取組や学校の最新情報を広く発信する。 ○地域企業へ本校教育活動の発信と情報交換	・広報委員会・ICT運営部を中心に年次・系列が連携したホームページ・SNS等による最新情報の発信を行う。 ・マスコミ等を使った積極的なPR活動を行う。 ・公開授業や学校行事等への案内・周知 ・地域企業との情報交換会、地域工場見学会等を実施する。	B	○ICT運営部や各年次・系列等が連携し、広報活動の充実を図ることができた。 ●学校評価アンケート項目で生徒の評価が低かった「情報発信」の改善に向け、早期の行事案内や生徒のニーズに応じた記事の発信を徹底する。
	積極的に業務改善を図り、職員の働き方改革に取り組む。	・全職員による風通しのよい職場づくり ・業務内容の効率化・スリム化	○職員間の情報共有と連携を進める。 ○超過勤務時間の月平均37時間以下（R6月平均38時間）と年休取得15日を目指す。 ○各行事、会議等は効率的な時間設定、運営を行う。	・ICT活用による業務の効率化と職員間の情報共有システムを構築する。 ・教員業務支援員へ業務を依頼する環境を整え、職員の業務軽減を図る。 ・部活動の方針の遵守や、複数顧問による交代での指導を行うことで部活動指導時間を軽減する。	A	○ICT活用により、業務の効率化と情報共有が促進された。 ○教員業務支援員の活用により、職員の業務負担が軽減された。 ●超過勤務は月平均約38時間、年休取得は10日であり、計画的な休暇取得を促す。

				<ul style="list-style-type: none"> 各業務内容の見直し及び必要な従事時間を洗い出し、次年度の適正な人員配置に生かす。 		<ul style="list-style-type: none"> 委員会の再編により、効率的な会議運営が実現した。 業務内容と時間の精査を行い、次年度の適正な人員配置に向けた検討が進んだ。 ●部活動の規定を見直し、指導時間のさらなる削減を図る。
学力向上	総合学科の特色を生かした教育課程の工夫・改善に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> 教科横断的な授業（カリキュラム・マネジメントの実践） 	<ul style="list-style-type: none"> 学校の教育目標を踏まえ、教科横断的な視点から育成すべき資質・能力を明確化する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教務・総合学科研究部が連携した教育課程検討委員会を実施する。 教科の枠を超えた学習やグループワークを導入し、生徒たちが主体的に学びを深める機会を設ける。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 部局を越えた組織的なカリキュラム検討体制を構築できた。 ●生徒の活動の質をさらに高めるため、思考を深める問い立てや、グループワークにおける適切な評価方法の確立が必要である。
	生徒が自ら学びに向かうための授業改善に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> 分かる授業の推進（協働的な学び） 	<ul style="list-style-type: none"> 観点別学習評価における校内研修を年2回実施する。 ○「指導と評価の一体化」を推進する。 ○校内公開授業週間を年2回実施する。 ○同一教科と他教科をそれぞれ参観することを推奨する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科毎の評価の方法を共有することで各教科の評価方法の改善を図る。 「指導と評価の計画表」作成と効果的な評価の在り方に関する理解の深化を図る。 職員の参観率の向上のため教務部が立案し、学期に1回全校全体で取り組む。 事前案内や呼びかけ、実施後の参観メモの提出依頼、Google formsを活用した参観状況データの見える化に取り組む。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 2回の校内研修を通じ、観点別評価の定着と他教科の実践の共有が進んだ。 ○指導と評価の計画表作成により、円滑な授業計画の立案が可能となった。 ●指導と評価の一体化を推進する具体的な取組には至らなかった。 ○公開授業週間で17科目の研究授業を実施し、合評会等を通じて授業力向上を図った。 ●学校評価アンケート項目の「授業参観」の職員評価は2.3ポイントと低く、多忙による参観時間の確保が課題である。
		<ul style="list-style-type: none"> 一人一台タブレット等のICT機器の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○ICT機器を活用した協働的な授業を実施する。 ○全教職員のICTを活用した指導力の向上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 公開授業等でのICT機器を活用した協働的な授業実践に取り組む。 校内におけるICT活用研修（ミニ研修含む）を実施する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 公開授業に限らず、授業での日常的なICT活用が定着した。 ○ICT運営部と連携した各種研修が、効果的な授業づくりの一助となった。 ○学校評価アンケートの項目「ICTを活用

						<p>した協働的な授業」の生徒の評価は3.2ポイントだった。</p> <p>○県のICT活用研修を利用し協働的な授業の研修を実施した。</p>
		<p>・学習習慣の確立</p>	<p>○家庭学習時間調査を年2回実施し、調査前及び平常時の学校全体の平均学習時間を前年度から10分以上増加する。</p>	<p>・各教科と連携を図り、平常時の課題や単元テスト等の実施を促進する。</p>	B	<p>○調査前後の平均学習時間の差は56分（前95分/後39分）となり、昨年度の64分から8分減少した。</p> <p>●学年による調査前後の平均学習時間の差（1年次36分、2年次68分、3年次64分）があるため、今後は特に調査後の家庭学習の充実が課題である。</p>
キャリア教育（進路指導）	生徒の主体性を育むキャリア教育を推進する。	<p>・職業研究プロジェクト、インターンシップ及びデュアルシステムの充実</p>	<p>○職業・仕事への興味関心の喚起と理解の深化を図る。</p> <p>○3年次総合的な探究の時間を充実させる。</p>	<p>・自らの進路選択との関係性を明確にした職業研究プロジェクトを実施する。</p> <p>・企業開拓及び全職員の協力による事前事後指導を行う。</p> <p>・幅広い分野とのつながりを持った探究活動を実施する。</p>	A	<p>○自身の興味・関心に基づいた進路調査と、その発表力の育成を図ることができた。</p> <p>○ガイダンスや体験活動の充実について、生徒アンケートで3.2ポイントの評価を得た。</p> <p>○組織的な事前・事後指導を徹底し、生徒が主体的に探究を深める姿勢を育んだ。</p>
		<p>・地域との連携（クリエイト・ハイスクール）</p>	<p>○全ての系列の教科で地域と連携した授業実践に取り組み、地域の教育機関、自治体、企業から技術を学ぶ。</p>	<p>・学校運営協議会委員に指導助言を仰ぎ、地域社会に求められる人材像を明確化する。</p> <p>・キャリア教育発表会を12月に行い、各系列・各教科との横断的な学びを展開する。</p>	A	<p>○学校運営協議会での助言により、本校が目指すべき「求められる人材像」を明確化した。</p> <p>○3年次のポスター発表に加え、インターンシップや職業研究の優秀者の発表を実施した。</p>
	学校全体で進路指導に取り組む。	<p>・進路指導の充実（「チーム翔陽」の実践）</p>	<p>○県内就職率8割を超える。</p> <p>○公務員合格率7割を目指し、国家公務員や県警察等への挑戦を促す。</p> <p>○進学合格率9割のために、個性を生かした総合型選抜、学校推薦型による推薦入学試験に</p>	<p>・全職員での面接指導に取り組む。</p> <p>・各校務分掌との連携を図る。</p> <p>・関係外部機関（大津町役場（企業振興課）、大津町企業連絡協議会、県北地域企業、県雇用環境整備協会）との連携を強化する。</p>	A	<p>○希望者全員の就職が決定し、県内就職率86%であった。</p> <p>○公務員試験では国家・県警ともに合格者を出し、不調者も二次募集まで粘り強く挑戦した。</p> <p>○進学合格率は1月末時点で90%で、一</p>

			対応した指導を行う。	・各上級学校の説明会で得た情報を活用し、生徒の個性を生かした進学指導に取り組む。		般入試に5名が挑戦中である。
生徒指導	学校全体で生徒指導に取り組む。	・ 基本的な生活習慣の確立と規範意識の高揚	○挨拶の徹底と容儀の再指導生徒を各年次20人以下にする。 ○特別な指導件数を15件以下にする。	・ 風紀委員会と連携して、生徒自身が考える容儀指導・生活指導に取り組む。 ・ 職員の共通理解のもと、全職員で粘り強い指導に取り組む。 ・ 職員が、気になる生徒を早期発見し情報を共有し、組織的な対応に取り組む。	B	○翔陽祭や120周年式典に合わせ、風紀委員会を中心に容儀の適正化を推進した。 ○週3回以上の指導を通じ、生徒への声掛けや職員間の情報共有を徹底した。 ●再指導対象者は20人を下回ったが、一部の生徒には継続的な指導が必要である。
		・ 交通安全教育の充実	○自転車のヘルメット着用100%及び二重ロック90%を目指す。	・ 交通安全講話・通学方法別集会の実施や交通委員会による定期的な交通ルールへの規範意識向上の呼びかけを行う。 ・ 自転車通学生への安全指導の実施及び定期的に2重ロック点検を実施する。	C	●自転車ヘルメットの着用は概ね浸透したが、校外での定着に課題が残る。 ●二重ロックの実施率は60%に留まっており、今後さらなる指導を徹底する。
	自己管理・自己決定を促す指導の充実を図る。	・ 生徒会活動の活性化	○自らの学校生活に責任感を持たせる	・ 体育大会、翔陽祭等の行事を生徒会執行部主導で行う。 ・ 学校行事の意義について全校生徒へ理解を促し、達成感のある行事にする。	A	○生徒会執行部の計画的な運営により、体育大会と翔陽祭が充実した内容となった。 ○特に行事への3年次生の積極的な参加が目立ち、活気ある運営に繋がった。
		・ ボランティア活動の充実	○各種活動への新規の参加者を昨年度より増やす。	・ ボランティア委員会による広報活動を行う。 ・ タイムリーな活動紹介と募集に取り組む。	A	○ボランティアへの関心が高まり、参加者は延べ996名（前年比193%）と大幅に増加した。
		・ 部活動の活性化（人としての成長）	○部活動加入を積極的に推奨する。	・ 地域の中学生に部活動の実績をホームページで紹介する。 ・ 生徒へ年間を通して加入を勧め、部活動の魅力をアピールする。	B	○部活動加入率は79.9%（文化部17.8%、運動部62.1%）であり、生徒が意欲的に活動した。 ●今後はICT運営部と連携し、生徒の活躍をさらに広く発信していく。
人権教育の推進	人権意識の向上に向けた取り組みをすべての教育活動で行う。	互いに認め、尊重し合う人権意識・態度の育成	○人権問題についての正しい知識と認識の深化を図る。 ○身のまわりにある様々な差別を見抜き、許さず、正しく行動できる	・ 定期的に校内職員研修を実施し、校外研修への参加を促す。（原則年に1回以上）	B	●旭志解放保護者会との現地学習会を実施したが、外部研修会への参加には課題が残った。

			力を育成する。	・校内人権集会(年2回)、 人権教育LHRと人権教育 講演(年4回)を実施す る。		○人権講演会を年1回 に集約し、生徒主体 の校内人権集会を年 2回実施した。
	命を大切にす る心を育む指 導の充実を図 る。	自他を尊重す る心と社会規 範を遵守する 生徒の育成	○「生命の大切さ」の指 導を徹底する。 ○生徒の自発的・自律的 な道徳的行動の涵養へ の取組を行う。	・生命を大切にす る観点を取 り入れた授業や人権教 育LHRを実施する。 ・ホームページを利用した 生徒・保護者への広報・啓 発を行う。	B	○年2回の校内人権集 会に加え、人権LHR を年3回実施し、生 徒の人権意識向上を 図った。 ●啓発活動は、教室掲 示による案内に留ま った。
	切れ目のない 支援の充実を 図る。	教育相談活動 の充実	○一人一人の生徒のニー ズに応じた特別支援教 育を推進し、生徒支援 体制を確立する。 ○通級指導体制を確立す る。	・職員間の情報共有体制を 強化し、全職員で支援の 在り方を検討、実践す る。 ・保護者、SC、SSW、専門機関 との連携に取り組む。 ・巡回相談を活用する。	A	○教育相談情報交換会 (20回)やケース会 議を定例化し、迅速 な情報共有と支援方 針の統一を図った。 ○SSW(4名)や外部 専門家(巡回相談4 回、スーパーティー チャー2回)を積極 的に招聘し、通級指 導及び教育活動の質 を向上させた。
いじめの防 止等	安心安全な 学校づくりに 取り組む。	いじめをしな い人間関係の 形成	○いじめ未然防止と早期 発見・早期解決に向け 組織として取り組む。 ○いじめ事案については 保護者との連携を強化 し、教育的配慮を踏ま えて対応する。 ○SNSによる被害防止に 取り組む。	・いじめ防止対策委員会(3 回)・小委員会(4回)及び 臨時小委員会を実施す る。 ・生徒会、委員会による定 期的な啓発活動を行う。 ・保護者集会等で啓発活動 に取り組む。 ・ICT運営部と連携し、情 報モラル教育の充実・徹 底を図る。 ・生徒同士の自治的な活用 (生徒会やICT支援生徒 サポーターの活用)の促 進を通し情報モラルの意 識向上を図る。	B	○いじめ等の事案に対 し、SCや関係部署と 連携した組織的な対 応と再発防止を徹底 した。 ●生徒主体の啓発活動 は不十分だった。 ○情報モラル教育とし て、オンライン集会 での配信を実施し た。 ●SNSを巡るトラブルが 年々多様化・複雑化 の傾向にあり、未然 防止に向けた継続的 な対策が必要であ る。
保健・安全 管理	健康教育を推 進する。	健康な体と豊 かな心の育成	○健康観察の充実 ○感染症対策の実施 ○健康教育の充実 ○よりよい生活習慣の推 進	・担任による朝の健康観察 を活用し、体調不良者の 把握を行う。 ・全職員による感染症の予 防的対応 ・個別面談・保健指導の実 施	B	○健康観察表の活用によ り、クラス全体の 体調把握と感染症予 防を徹底した。 ○把握した情報を個別 対応や具体的な保健 指導に繋げ、支援の 充実を図った。 ●一方で、クラスによ り提出状況に差があ り、回収の徹底が課 題となった。

		救急救命研修会の実施	○応急処置及び救急救命蘇生法研修会を実施する。	・蘇生法、緊急時対応についての全職員による共通理解	B	○5月に菊池消防署より講師3名を招き、教職員48名で実施した。 ●後期は1回実施し、全職員が受講した。
	組織的な安全管理の充実を図る。	防災教育の充実	○防災主任を中心とした防災教育及び実践的な避難訓練を実施する。	・実践的な防災避難訓練を行う。 ・校内の避難経路の作成と周知及び登下校時の指定避難場所の周知、ハザードマップの確認を行う。 ・危機管理マニュアルの見直し・改定に取り組む。	B	○4月と11月の2回の防災避難訓練を実施し、2回目は火元を伏せた形式で対応力を高めた。予告なしの訓練を取り入れたことで、災害時の判断力や防災意識の向上を図った。 ●避難経路や指定避難場所、ハザードマップの周知が不十分であった。また、危機管理マニュアルの見直し・改定が計画どおりに進まなかった。
		施設設備の安全管理	○安全点検を実施する。 ○危険箇所の確実な発見と報告、速やかな対応を行う。	・「安全点検週間」を設定し、実施率を向上させる。 ・点検結果を集約し全職員に周知する。 ・実技の多い科目では、生徒への明確なルールの提示と説明を行う。	B	○職員による安全点検を確実に実施し、不備箇所の報告と修繕依頼を行った。 ●一方で、点検結果の全職員への周知・共有に課題が残った。
教育環境整備	5S活動の実践と環境美化に取り組む。	環境美化の徹底と環境問題への意識高揚	○節電・節水(省エネ推進)に努め、3~10%の削減を目指す。 ○ゴミの減量化(可燃ゴミ重量昨年比5%減少)を目指す。	・あらゆる場面での5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)の指導を徹底する。 ・環境美化コンクールを実施し、生徒への啓発を行う。 ・「節電・節水」の掲示物等を活用した啓発活動を行う。	B	○美化委員会による月1回の5S活動や重点的な清掃を通じ、委員の美化意識を向上させた。 ●全校生徒の清掃意識の向上と、ゴミ分別の徹底が引き続き課題である。
	ICTの環境整備に取り組む。	ICT機器等の適正な管理と利用促進	○安心してICTを活用できる環境を整備する。 ○学校情報化優良校認定更新に向けて取り組む。	・ICT機器の管理状況を把握する。 ・ICT機器の活用研修(ミニ研修含む)を実施する。 ・ネットワーク環境の充実を図る。 ・ICT支援員を活用した利用促進に努める。	A	○ICT機器を十分に活用しており、校内のネットワーク環境も整っている。 ○県の研修サポートを活用し、ICTによる業務改善研修を実施した。 ○ICT支援員との連携により、授業準備や行事、機器相談が円滑に進んでいる。

地域連携（コミュニティ・スクールなど）	地域との連携による特色づくりに取り組む。	自治体や企業、地域住民、近隣各校、同窓会との連携	<p>○授業や学校行事等での連携を通じた魅力づくりに取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・公開授業や学校行事等への案を通じた開かれた学校づくりを行う。 ・就業体験学習（インターンシップやデュアルシステム等）の自治体・企業・保育園等との連携を推進する。 	A	<p>○体育大会及び翔陽祭は、多くの保護者や地域住民が来場する活気ある行事となった。</p> <p>○インターンシップでは120社を超える事業所に協力いただき、生徒にとって貴重な学びの場となった。また、事業所からの評価も概ね良好であった。</p>
			<p>○近隣の小学校・中学校・大津支援学校との交流及び共同学習に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・農作業体験学習 ・共同学習等 ・地域の花壇の管理 ・学校行事などを案内・公開し、学校教育活動の理解促進 ・地域と本校生徒とのコラボ行事の実施 	B	<p>○地域の小中学校への農作業学習支援やロボット実演等を通じ、近隣校との積極的な交流を実践した。</p> <p>●本校の魅力ある活動をより広く発信するため、今後はホームページの即時更新や、マスコミ各社との連携を強化した積極的な広報活動を展開していく必要がある。</p>
			<p>○同窓会との連携を強化する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校支援、後輩への激励及び海外学習への支援を依頼する。 ・創立120周年記念事業への協力を依頼する。 	B	<p>○全国大会・総体・総文・海外研修等への奨励金支援をいただくことができた。</p> <p>○創立120周年記念行事を連携しながら進めることができた。</p>
		保護者との連携強化（育友会活動の充実）	<p>○育友会との更なる連携を進め、誰もが参加しやすい組織づくりに取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・育友会活動の効率化による負担軽減に取り組む。 ・育友会レクリエーション、翔陽祭や長距離走大会での支援、登校指導、校外補導等の連携実施。 ・「すぐーる」アンケート機能を活用し、保護者の意見を聴取し、育友会組織改善に繋げる。 	A	<p>○会議や連絡のDX化により、参集型会議の回数を削減し、教職員の負担軽減を実現した。</p> <p>○創立120周年行事をはじめ、育友会の協力により、学校行事の運営が円滑に進んだ。</p> <p>○学校連絡システムが定着し、保護者との迅速かつ密な連携が可能となった。</p> <p>○育友会会長によるいじめ防止の啓発を行った。</p>

		コミュニティ・スクールによる地域との連携強化	○学校と地域が情報を共有し、役割を分担することで、特色ある学校づくりや学校の魅力化に取り組む。	・協議会での提案・支援内容について検討し、学校運営の改善に生かす。 ・学習活動やキャリア教育において、積極的な地域人材活用を図る。	B	○学校評価アンケートの「地域連携」項目にて、生徒3.3、保護者3.2ポイントと良好な評価を得た。 ●今後は学校運営協議会で課題を率直に共有し、地域と共に生徒を育む体制を強化したい。
--	--	------------------------	---	--	---	---

<p>4 学校関係者評価</p> <p>委員の皆様からいただいたご意見は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域との連携やボランティア活動は続けていただきたい。ジュニアリーダー夢会議で出た子供たちの意見から実現した取組がある。これからも子供たちの意見を大切にしたい。 ・工場見学や企業ガイダンス後のアンケート内容が素晴らしく、感銘を受けている。「社会がどのような所か早く経験したい」という高校生が多い。是非、アルバイトは推進していただきたい。 ・私学の専願の結果を見ると、難易度が上がっている。これまでの「公立第一、私立第二」という考えは崩れている。高校の魅力・特色を打ち出していく必要がある。大津町はJR沿線のため外に出やすいが、逆もある。生徒募集に関しては、情報発信と全県に視野を広げることが必要。 ・学校のホームページやInstagramを、もう少し更新してほしい。情報が止まったままのページもある。生徒会や部活動の紹介をしてほしい。他校は頻繁に更新している。 ・交通ルールは、小さいときは守れるが、年齢を重ねると「これくらいいいかな」となる。心を継続的に育てていくことをしたい。また、デュアルシステムのお礼文は、心に響く内容である。デュアルシステムを経験した生徒が、大学生として実習に来ている。ここ（大津町）で子供を育てたいという人を増やしたい。そのために、町の良さをPRしたい。 ・高大連携で技術指導をしている。本校の学校説明会にも翔陽高校から参加していただいた。翔陽高校から本校に入学し、就職後に企業説明会で本校に来ていただいている。人材の好循環となっている。

<p>5 総合評価</p> <p>1 本年度の学校教育目標 全職員で学校教育目標の具現化に向けた取組を行うことができた。</p> <p>2 本年度の重点目標 各分掌・各職員が共通の重点目標のもとで役割を遂行し、総合学科としての特色を活かした学校づくりを実現できた。</p> <p>3 自己評価総括表 評価項目全30項目のうち、A評価が12、B評価が17、C評価が1であったことから、概ね目標は達成できたものとする。</p> <p>(1) 学校経営 特色ある学校づくりについては三者（生徒・保護者・教職員）共に高く評価しているが、総合学科ならではの取組に対する生徒への周知・還元には依然として課題が残る。今後は、生徒が自らの活動の意義を再確認できるよう、活動内容をタイムリーに可視化する発信媒体の工夫や、共有方法の改善に取り組んでいきたい。</p> <p>(2) 学力向上 ICT機器を効果的に活用した協働的な学びの実践が定着しつつある。また、校内研修を通じて、観点別学習状況の評価基準に関する全職員の意識統一が図られた。今後は、教科の枠組みを超えた相互参観や授業研究をさらに推進し、組織的な授業改善と教員の指導力向上を目指す。</p> <p>(3) キャリア教育（進路指導） 生徒及び保護者のニーズを捉えた多彩なプログラムの展開により、進学・公務員・就職といった多様な進路希望に即応する「個に応じた指導体制」を確立した。令和8年度入学生の3か年計画を見据え、多角的な視点からさらなる支援の充実を図っていく。</p> <p>(4) 生徒指導 容儀指導や交通マナーについては概ね目標を達成したが、一部の生徒への継続的な個別指導に課題を残した。一方で、ボランティア活動への参加者は年々増加しており、生徒の社会貢献意識の高まりとともに、地域連携の深化に大きく寄与することができた。</p> <p>(5) 人権教育の推進</p>

教育相談体制において、校内組織と外部関係機関との緊密な連携体制を構築し、生徒に対する「切れ目のない支援」を実践することができた。人権教育に関しても、時代の要請に応じた多角的な取組を展開したが、地域・自治体主催の学習会等への職員の参加促進については、周知や動機付けに課題を残した。

(6) いじめ防止等

いじめ事案等に対し、SCや関係機関と密な連携を図り、組織的な対応を迅速に展開することができた。一方、SNSを介したトラブルについては、内容の多様化・複雑化が進み、個別の事案に対して十分な未然防止や事後対応に至らなかった面がある。今後は、マニュアルの改訂及び校内体制の見直しを行い、対応力の強化を図る。

(7) 地域連携（コミュニティースクールなど）

地域、保護者、同窓会等と円滑な連携を図ることができ、生徒にとって多様な学びや体験の機会を創出することができた。今後はさらに外部機関とのネットワークを深め、「地域になくてはならない学校」としての存在意義を確立することを目指す。

6 次年度への課題・改善方策

(1) 学校経営

各系列の特色を再定義し、産官学金連携事業の質をさらに高める。魅力ある教育実践を通じて志願者確保に繋げ、地域社会に貢献できる「地域の担い手」を育成する。

(2) 学力向上

ICT機器の使用そのものが目的化せず、生徒の思考を深めるための効果的な活用場面の精査と、個々の習得状況に応じた個別最適な学びへ展開する。また、観点別学習状況の評価については、全教員による評価が、統一された評価基準に基いた客観的かつ公平な判定となっているか継続的な検証を行う。

(3) キャリア教育（進路指導）

3年間を通したキャリア・パスポートの有効活用など、学年を超えた指導データの蓄積と共有による、シームレスな伴走支援を確立する。

(4) 生徒指導

指導対象生徒が抱える背景を多角的に把握し、発達支持的生徒指導の観点に基づいたアプローチを強化する。また、容儀・マナー等の規範意識を、「地域の一員としての自覚」を促すことによって高めていく。

(5) 人権教育の推進

地域・自治体主催の学習会等の情報を早期に集約・共有し、計画的な参加を促す体制を構築する。また、生徒支援において、外部機関との連携が特定の担当者に偏らないよう、情報の共有ルールや引き継ぎの仕組みを定着させ、支援を持続可能なものとする。

(6) いじめ防止等

改訂したマニュアルを周知するだけでなく、ケーススタディを用いた模擬演習を実施し、組織としての現場対応力を高める。また、アンケートや教育相談、SNSを通じたSOSの出し方指導など、トラブルの兆候を早期に察知するための情報収集体制を構築する。

(7) 地域連携（コミュニティースクールなど）

連携の成果を内外に効果的に発信するための広報活動を強化し、「地域に必要とされる学校」という認知の定着と魅力発信に取り組む。